

第6次高浜市総合計画推進会議（第5回） 会議録

日 時	平成28年11月15日（火）午後7時～8時30分		
場 所	高浜市役所 第5会議室（4階）	傍聴人数	2名
出席者	委 員	中川幾郎、酒井康満、岩月義成、菅野洋一、清水恵子、竹内一仁、田代峯子、内藤靖子、古橋知美、宮田克弥、神谷坂敏（11名出席）	
	行 政	市長 吉岡初浩 教育長 都築公人 総務部長 内田徹 福祉部長 加藤一志 こども未来部長 中村孝徳 財務グループ リーダー 岡島正明 文化スポーツグループ リーダー 鈴木明美 学校経営グループ リーダー 内藤克己 学校経営グループ 主幹 岡本竜生 こども育成グループ リーダー 都築真哉 地域産業グループ リーダー 板倉宏幸 市民生活グループ リーダー 芝田啓二 都市整備グループ リーダー 田中秀彦 都市防災グループ リーダー 神谷義直 地域福祉グループ リーダー 木村忠好 保健福祉兼生涯現役まちづくりグループ リーダー 磯村和志 人事グループ リーダー 杉浦崇臣 税務グループ リーダー 山下浩二 行政グループ リーダー 山本時雄 企業支援グループ リーダー 島口靖 上下水道グループ リーダー 杉浦睦彦 介護保険・障がいグループ リーダー 竹内正夫 福祉まるごと相談グループ リーダー 野口真樹 (23名出席)	
	事務局	企画部長 神谷美百合 総合政策グループ リーダー 野口恒夫 同 主 幹 榊原雅彦 同 主 査 山本久美 同 主 事 稲垣翔太 同 主 事 岡田真吾 同 主 事 加古博紀 同 主 事 川合晃三 (8名出席)	

次 第	1 あいさつ 2 議題 1) 推進会議からのコメントに対する行政の考え方と対応（案）の発表について 3 その他
資 料	資料1：第6次高浜市総合計画推進会議（第3回） 会議録 資料2：第6次高浜市総合計画推進会議（第4回） 会議録 資料3：第6次高浜市総合計画推進会議からのコメントに対する行政の考え方と対応（案）

1. あいさつ

- 会 長： ・これまでの推進会議で、平成27年度の取組みに対する施策評価を行ってきた。委員からいただいた、施策に対するご提案・ご意見等に対する行政の考え方・決意、具体的には、平成28年度に実行中の事業や平成29年度事業案にどのように反映したか、見直し・改善策等を資料3にまとめている。
- ・本日は、行政の考え方・対応（案）について委員が感じられたことをご提言いただき、行政におかれましては、ご提言を踏まえ、できる限り施策に反映していただきたい。

2. 議題

1) 推進会議からのコメントに対する行政の考え方と対応（案）の発表について

- 会 長： ・議題1に入るが、今回、会議形式を従来の形式から変更している。まずは、事務局より今回の会議の進め方について説明いただきたい。
- 行 政： ・今回の会議は、委員と行政の意見交換がより活発に行われるよう「ワールドカフェ形式」で行う。
- ・基本目標Ⅰ～Ⅳごとに分けているテーブルにおいて、持ち時間15分で委員と行政とで、資料3の内容について意見交換を行っていただく。15分経過後は委員のみテーブルを移動していただき、同様に意見交換を行う。4つのテーブル全てで意見交換を終えた後は、記録係として配置している総合政策グループの職員から、各テーブルで行われた意見交換の内容を発表する。
- ・発表後は、委員より一言ずつ行政に対するコメントなどをいただくとともに、今回変更した会議形式についての感想もいただけたらと思っている。
- 会 長： ・それでは、各テーブルで意見交換をお願いしたい。なお、残り5分・3分・1分の時点でアナウンスを入れるとともに、15分経過後チャイムを鳴らさせていただく。

＜テーブルⅠ～Ⅳで意見交換 以降4回繰り返し＞

- 会 長： ・続いて、各テーブルでどんな意見交換がなされたのか情報共有を行うため、意見交換の内容を発表していただく。
- ・テーブルⅠからお願いしたい。
- 行 政： ・目標（1）では、「交付金制度について、何が本当に必要な事業なのかといったことの見極めが大切である」というご意見があった。当意見に対し行政から、「自由度を高めた一括交付金制度に変更する。その代わり効果をしつかり検証していく必要がある」と回答した。
- ・目標（2）に関連した意見として、「現在、市のことに関心を持つ市民が増えている。この現状を良い傾向であると前向きに捉え、この機会に説明の重要性を理解し、正しい情報を自分たちが得て他の人にも話せるよう、正確な情報を知ってもらう手立てを考えてほしい」といった意見があった。当意見に対し行政から、「全庁一丸となって情報提供していけるように努める」と回答した。
- ・加えて、「公共施設の問題は、考えの転換を要する問題だと思う。頭を切り替えてという意識の変革の導きが必要ではないか」といったご意見があった。当意見に対し行政から、「行政自身も先を見据えた中で考えを切り替え

て計画にあたっていくと伝えていきたい」と回答した。

- ・また、「高浜市は慎ましく取組み、誇り高いまちにしてきた。それは市民と行政が肩を伍してやってきたからである。市民の意気込みと元気が大事だ」といったご意見もあった。

会 長： ・続いて、テーブルⅡの発表をお願いしたい。

- 行 政： ・目標（3）では、市誌編さんの進め方についての質問があった。行政からは「行政の持っている情報だけでは編さんできないため、市民を交え、市民からも情報をいただきながら進めていく。また、専門的な分野であるため学識経験者の意見を借りながら調査をしていく」といった回答があった。
- ・目標（4）では、コミュニケーション能力の育成についての質問があった。行政からは「コミュニケーション能力は学習の中で育てていきたい。各校研究テーマがあるが、その中心にアクティブラーニングを据えて取組んでいきたい。まずは主体的に学習をしていき、それを発展させて対話的な学び、アクティブラーニングにつなげていきたい」といった回答があった。
- ・目標（5）では、待機児童への対策についての意見があった。行政からは「公立幼稚園のニーズが減少してきており、公立幼稚園も選んでいけるよう、預かり時間を伸ばすなどの対応をしている」との回答があった。

会 長： ・続いて、テーブルⅢの発表をお願いしたい。

- 行 政： ・目標（6）では、「観光型・産業型・ベッドタウン型のどの分野に特化して市は取り組んでいくのか」というご意見があった。当意見に対し行政からは「市はいずれの分野においてもバランスのいい環境が整っており、それぞれの持ち味を活かした取組みが重要である」と回答した。
- ・目標（7）では、環境学習について、「市職員だけでなく、地域の方を交えて一緒になって取組みができないか」といった意見があった。
- ・目標（8）・（9）でともに10歳代の指標の結果が減少している点について、「まちづくり出前授業の成果が出てきていると実感しているが、そのことが結果に反映されない。アンケートの取り方を再考すべきではないか」といった意見があった。

会 長： ・続いて、テーブルⅣの発表をお願いしたい。

- 行 政： ・目標（10）では、生活困窮世帯への就労支援について、「就労訓練を行う認定を受けた企業は市内にどれだけあるのか」といった質問があった。行政から、「チャレンジサポートたかはま、カフェ&ベーカリーふるふる、おとうふ工房いしかわ、授産所高浜安立の4社がある」との回答をした。
- ・また、「高浜市総合サービス(株)に、ハローワークのような仕事斡旋業務をしてもらってはどうか」といったご提案があった。行政からは、「1つの受け皿として検討していきたい」という回答があった。
- ・南部まち協では子ども食堂開設の動きがある。「満足に食べることができない子どもたちを笑顔にさせたい。こういった動きが市内全体に広がるといい。」といった前向きなコメントもあった。また、「親のネグレクトの影響で食べられない子どもへの対策も講じてほしい」との意見もあった。
- ・目標（11）では、健康自生地を回ることで付与されるポイントについて、「1人ではなかなか長続きしないため、友人と一緒に回るとポイントが倍に

- なるなどの恩恵が受けられるようにしてはどうか」といった提案があった。
- ・ホコタッチ等認知症予防施策の効果検証について、年明けから対象者を絞り、この自生地ではどんな効果が高いのかといった具体的な調査を行っていく。
- 会 長： ・各テーブルの意見を聞いたが、ワールドカフェ形式にしたことで意見交換が活発になされていたと思う。従来は質問に対する回答のみで精一杯だったが、対話が成立していた。
- ・それでは、意見交換内容の発表が一通り終わったので、委員の皆さま方から行政に対するコメントや、今回変更しました推進会議の進め方のご感想など、一言ずつコメントをいただきたい。
- 委 員： ・南部まち協の一員として、少しでも市の活動に役立てている気がしてきたので、南部まち協にいてよかったと思う。
- 委 員： ・きちんとした対応を考えていただきありがたく思う。この形式は面白いが、しっかり意見を言えているか不安。形式的には楽しくやれた。
- 委 員： ・自分が携わっている分野についてはいろいろな意見が言えるが、なじみのない分野ではなかなかものが言えない。高浜の全体が見えるように目線を変えていきたい。
- 委 員： ・この形式は和やかな雰囲気、会話のキャッチボールができています。ぜひこういう形式を増やしてほしい。文章に出ているもの以外の行政の熱い想いも聞けた。
- 委 員： ・今まで聞けなかったことがいろいろ聞けてよかった。
- 委 員： ・とても忙しかった。初めてだったので次回はもっとうまくできるかもしれない。
- 委 員： ・思ったことが言えたり聞けたりしてよかった。緊張感はあったが、いつもよりもリラックスできた。委員の意見をなるほど聞きながら、それを行政が細かく説明してくれるのは理解しやすかった。こういう形式は好きである。
- 委 員： ・頭をフルに使った。今までの会議では「こんな細かいところまで質問しても・・・」とためらうことがあったが、細かい話をしても答えてくれるのでやりやすかった。
- 委 員： ・フランクに話せてお互い意志疎通できた。細かい内容まで話していただき、とてもいい試みである。
- ・資料の中で、コメントに対し「過去にやりました」「もう済んでます」という回答が見られる。委員は過去にやったことは知らない。一般の人はもっと知らないはず。1回出して終わりではなく、情報提供の仕方、出し方を検討していく必要がある。そして、市民が本当にわかったのかを測る体制づくりも必要である。
- 会 長： ・「公共施設については頭の転換が必要」という意見に私も啓発された。「インシャルコストとランニングコストの感覚をもっと持つ」ということだと思う。施設を運営していくためのランニングコストの認識が一般化していない。そういう点で頭の転換を市民に要求されているということかなと思う。このことは総務省が要求している公共施設総合管理計画でも要求されていることで、全国の自治体がこれに取り組んでいるわけだから、市民に対する啓発の観点としては大事なことである。これまで市民はパフォーマンスばか

り要求していたが、これからはかかるコストを市民意識として創意しないと
いけないということをおっしゃったと思う。

- ・子どもに対する注目度が各テーブル高かった。未来に対する期待や子どもに
対する責任感が高いのがこのまちの特徴。高齢化した自治体では、自分たち
の老後のことや高齢者介護のことに話が集中しがちだが、高浜は皆さんのエ
ネルギーがまだまだ健全というか未来に向かって志向されていて感動した。
- ・生活困窮者や生活保護受給者に対するまなざし、温かい細やかな視点による
質問が多かったことに感銘を受け、改めて高浜の市民性の高さを感じた。
- ・PRの仕方について、一枚岩のPRではなく、三方面のPRが必要なのでは
ないかと感じた。何も関心がない・知らない状態の市民に対する一般的なP
R、ある程度必要性のある階層に向けてターゲティングしたPR、もっと
仲間・理解者を増やしたいというPRなど工夫しないと、市民に認識を深め
てもらおうという取組みを組立て直さないといけないのかもしれない。「広報
に載せてます」だけでは通用しない。
- ・市のことに全く関心のない市民、住んでいるが自分の生活に関わる部分しか
関心がない市民、全面的に市の経営に関わっていききたいという市民などいろ
いろいる。その三層に向けたPRが必要。関心のないところには、どれだけ
PRしても届かない。情報が不足しているということではない。情報をどの
ように供給するか、戦略性を細かく組み立てる必要があると感じた。
- ・政策も所詮は壮大な矛盾の中でどれを選択するかという決断でしかない。あ
れもしろこれもしろは成り立ちませんということは、この計画の中で皆さん
感じてらっしゃると思う。国・都道府県・市町村の責任については、この会
議で共通認識されていると思うが、市レベルでどれくらい攻めていけるのか
というような議論があったように思う。今後、高浜市がどれほど国に対して
政策を訴えていけるかという糸口が見えてきた気がする。

3. その他

- 会 長： ・以上で、全ての議事は終了した。
・その他に入るが、次回第6回推進会議の日程を確定させたい。
- 行 政： ・次回第6回推進会議の日程について、3月13日（月）午後6時からはいか
がが。ご都合の合わない委員は挙手をお願いしたい。
（挙手なし）
- 行 政： ・それでは、次回第6回推進会議は3月13日（月）午後6時から開催する。
日程が近付いたら案内文書を送付する。
- 会 長： ・では、これをもって、第5回総合計画推進会議を終了する。